



超極圧潤滑剤 潤滑 防錆 防湿 浸透

# NASKALUB<sup>®</sup>-P

used by professional printing machines



## 特長

従来の浸透潤滑剤では、長期にわたり潤滑効果が得られず、又極圧潤滑にはほとんど効果がありませんでした。ナスカルブPは金属の接触摩擦によって発生する電子イオンにより浸透性特殊分子層を形成し、すばらしい極圧性と、滑らかな潤滑性を与えます。その効果は半永久的なものがあります。この皮膜はオイル切れしても一定期間取れることなく、極圧・潤滑を保持しますので、初期磨耗を防止し、焼付き・きしみ音・磨耗・破損を防止し、スムーズな回転と、機械・部品の寿命を著しく延長します。

- 1) 防錆力を従来より高めました。
- 2) 粘度を下げるにより浸透性を更によくし紙粉の付着が少なくなります。
- 3) 300mlの小型化で狭い場所にも注入可能出来るようになりました。
- 4) **逆さま噴射出来るようになりました。**
- 5) ノズルをプラスチックから細いステンに変更しピンポイント注油が可能になりました。
- 6) 廃棄時のガス抜きがワンタッチでできます。

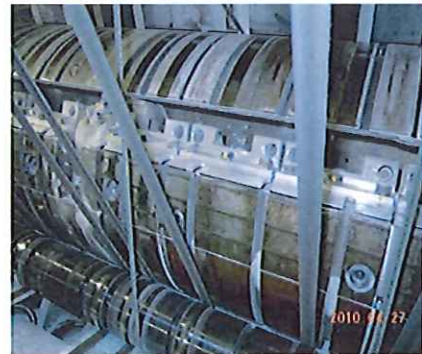
インキツボ



印刷搬送ライン チェーンとスライドレール部



折機 くわえ部爪受け軸部分



【印刷機械 使用事例】

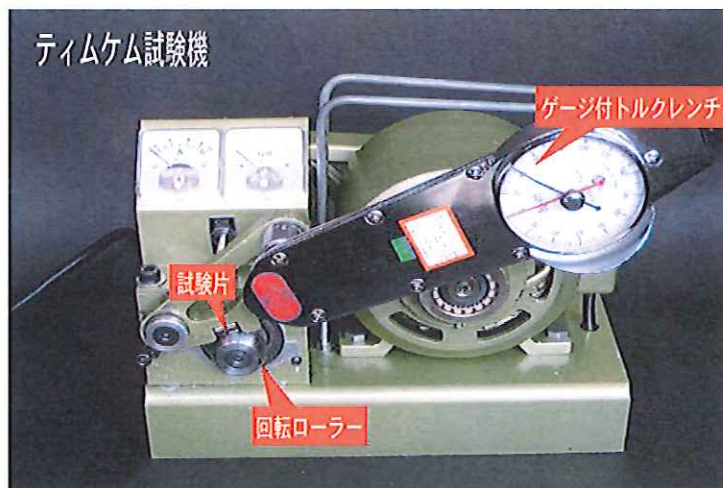




超極圧潤滑剤 潤滑 防錆 防湿 浸透

# NASKALUB®-P

used by professional printing machines



\*ナスカルブ-Pの優れた極圧性が分ります。

ティムケム極圧テスターによる磨耗テスト



他社のオイルスプレー  
300 k 加圧30秒回転後  
の磨耗コン



NASKALUB-P  
900 k 加圧30秒回転後の磨耗コン

## ■ 実験効果による評価

- 1) 極圧潤滑に特に効果がある。
- 2) 磨耗を防止し、発熱・焼付を防止する。
- 3) 磨耗係数0.07(普通0.30)非常に小さいので潤滑の滑りに優れる。
- 4) 外部潤滑部での磨耗摩擦熱に強い。
- 5) 薬品・公害に強い。
- 6) 一旦皮膜ができると水・薬品がかかっても落ちにくい特性がありその持続効果は長期的である。
- 7) 優れた防錆・防蝕効果が長期的である。
- 8) 高温に対して非常に強い皮膜を形成する。





## ■ 製品安全データ

製品名(化学名、商品名等)	: N A S K A L U B - P (ナスカルブ-P)
物質の特定	
単一製品・混合物の区別	: 混合物
化学名	: 石油系炭化水素及び添加剤
成分及び含有量	: 潤滑油基油 40~50% 潤滑油添加剤 10~20% LPG 30~40% 塩素系極圧添加剤を含有する
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: 企業秘密なので記載できない
C A S N O	: 企業秘密なので記載できない
国連分類及び国連番号	: クラス2 : 高压ガス1950
労働安全衛生法	: No168
P R T R 法	: 該当しない
(*特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善に関する法律)	
RoHS 指令	: 適合

危険有害性の分類	
危険性	: 消防法、危険物、第四類第四石油類(非水溶性)
分類の名称	: 分類基準に該当しない
応急処置	
目に入った場合	: 清浄な水で十分目を洗浄した後医師の手当を受ける
皮膚に付着した場合	: 水と石鹸で付着した部分を洗う
吸引した場合	: 新鮮な空気の場所に移す、体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、必要なら医師の手当を受ける
飲み込んだ場合	: 無理に吐かせないで、速やかに医師の手当を受ける 口の中が汚染されてる場合には、水で十分洗う

## ■ 注意 (エアゾール)

### ● 取扱い及び、保管上の注意

取扱い：漏洩の無いこと。火気厳禁ガスの滞留を防止する。  
保管：容器は転倒・落下・衝撃等を防止する。過充填禁止。  
温度上昇を防止する (40℃以下)

### ● 廃棄上の注意

液状にて大気放出禁止。  
やむを得ずガス状放出の場合は、火気のない通風良好な状態で実施する。  
ガスが入ってる容器を、そのまま廃棄すると違反となる。

### ● 輸送上の注意

容器は転倒・落下・衝撃等避ける。  
容器は温度の上昇を防止する (40℃以下)  
火気の使用を禁止する。

### ● 適用法令：高压ガス取扱い法

※製品の使用は改良の為予告なく変更する場合があります。

### ● 販売代理店

### ● 総発売元



株式会社 **ニチナン商事**

〒204-0011 東京都清瀬市下清戸3-928-1

TEL (042) 495-6533 (代)

FAX (042) 495-6522

